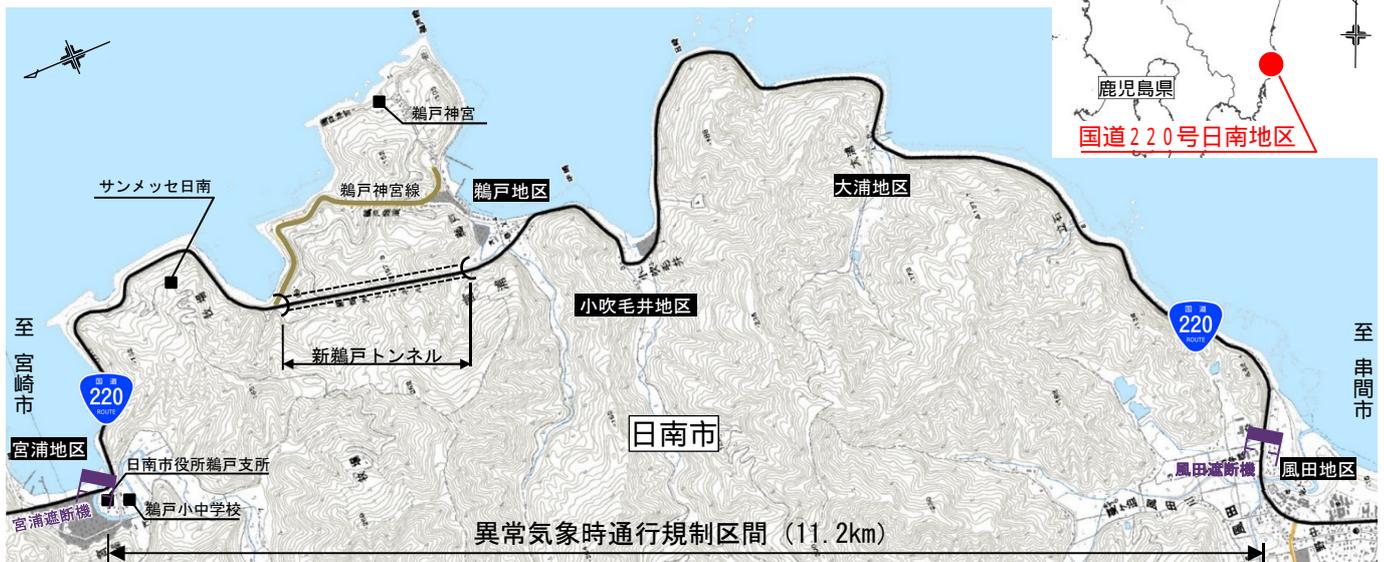


宮崎管内国道防災検討会を開催しました(持ち回り開催)

○国道220号日南地区における降雨等による異常気象時通行規制や、土砂災害時の通行止めが発生する沿線集落の孤立や迂回の解消に向け、昨年度より防災事業の必要性や対策内容について、専門的かつ技術的な観点から有識者に助言を頂きながら検討をしているところですが、このたび、対策(案)がとりまとまりましたので、宮崎管内国道防災検討会を開催しました。

■主な検討内容

- ・国道220号日南地区の課題共有(昨年度までの議論共有)
- ・特に対策が急がれる区間の抽出
- ・対策(案)まとめ



■開催日：令和2年3月11日(水)～17日(火) 持ち回り開催※1

※1 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、委員会形式ではなくそれぞれの有識者に個別協議を実施

■有識者：横田 漢 宮崎大学名誉教授、末次 大輔 宮崎大学教授
福林 良典 宮崎大学准教授、神山 惇 宮崎大学助教

【問い合わせ先】 国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

技術副所長	いがり めいと 猪狩 名人
調査第二課長	こはら まさと 古原 正人

TEL : 0985-24-8221 URL : <http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>

宮崎管内国道防災検討会 結果

宮崎河川国道事務所では、有識者による検討会を開催し、降雨等による異常気象時通行規制や土砂災害に伴う通行止め等、現道の課題が山積する国道220号日南地区について、課題の解消に向けた対策（案）について議論しました。結果は以下のとおりです。

■有識者：横田 漢 宮崎大学名誉教授、末次 大輔 宮崎大学教授
 福林 良典 宮崎大学准教授、神山 惇 宮崎大学助教

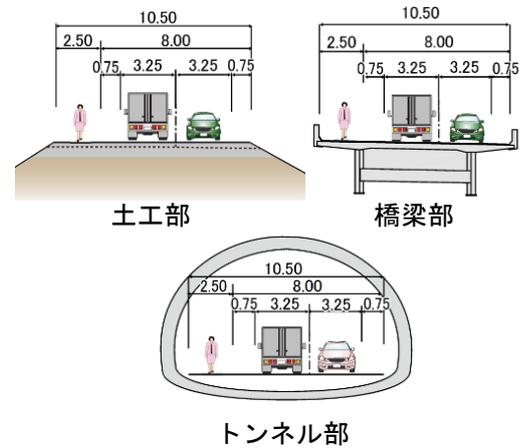
結果概要

- 異常気象時通行規制区間(11.2km)の課題を現道対策により解決するためには、施工上の技術的な課題解決に加え、膨大な費用と期間が必要であり、別線整備が望ましい。
- 規制区間のうち、「宮浦～鶴戸」間の課題が最も多く、特に対策が急がれる区間といえる。
- 特に急がれる区間における対策(案)(別線整備ルート(案))は大規模地すべり等の地質リスクを回避しており妥当と判断される。
- 今後、地質踏査・ボーリング調査等により、地形・地質を適切に把握しながら設計すること。

国道220号日南地区位置図



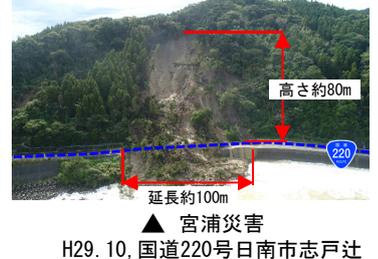
標準横断面図



「宮浦～鶴戸」の対策(案)



災害写真



現道写真

